

研究プロジェクト B

通所介護における生活行為の向上を視点としたマネジメントに関する研究

1. 研究背景

通所介護は、介護保険利用者の3人に1人が利用し、在宅介護を支える大きな柱の一つである。そこでは、必要な日常生活上の世話をするとともに、生活機能の維持及び向上を目指した効果的な機能訓練が求められ、具体的な生活行為*の向上（例；週に1回、囲碁教室に行く）を目標とした訓練を実施する必要がある。しかし、生活行為を視点とした機能訓練の実施数、内容、効果は十分とはいえない。

*生活行為：人が生きていく上で営まれる生活全般の行為。日常生活活動(ADL)、手段的日常生活活動(IADL)、仕事、趣味、余暇活動などの行為の全てが含まれる。

2. 研究目的

本研究では通所介護における生活行為の向上に関するサービスの実態を明らかにし、その質を評価するとともに、生活行為の向上を視点とした総合的な介護マネジメントモデルを開発することを目的とする。

3. 研究概要

- ①埼玉県内の通所介護事業所及び利用者を対象とした基礎調査を実施する（2016年）。
- ②介護サービス情報公表システムのデータベース分析、通所介護における生活行為向上への取組に関するフィールド調査を行い、優れた取り組みを抽出するとともに、機能訓練の手順、内容、効果、課題を分析し、マネジメントモデルについて中間報告をまとめる（2017-2018年度）。
- ③中間報告を踏まえ、機能訓練指導員等による実践的観点から検討を行い、最終報告をまとめる。また、埼玉県と連携し、「高齢者元気力アップ応援事業所」認証事業に参加する通所介護事業所を対象とした研修会を実施する（2018－2019年度）。

4. 研究体制

研究リーダー：臼倉京子（作業療法学科准教授）

研究補佐：常盤文枝（看護学科教授）

研究メンバー：星文彦（理学療法学科教授）

菊本東陽（理学療法学科准教授）

張平平（看護学科准教授）

金さやか（看護学科助教）

小池祐土（作業療法学科助教）

河合綾香（研究開発センター研究員）

外部メンバー：藤縄理（福井医療大学保健医療学部教授）

介護事業所等